

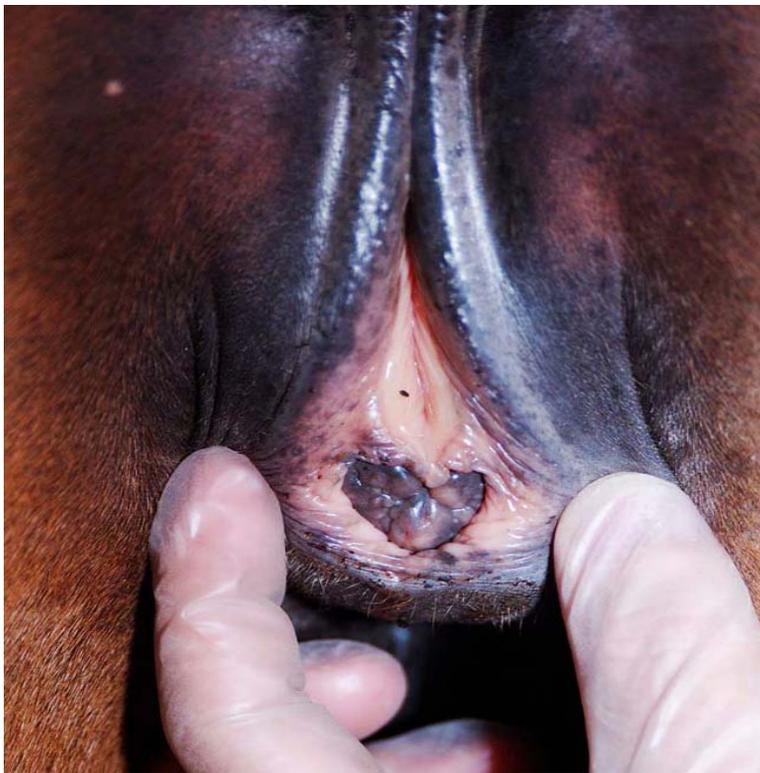
馬伝染性子宮炎保菌馬検査の  
ための生殖器スワブ採取法  
ならびに  
馬伝染性子宮炎の治療法

JRA競走馬総合研究所栃木支所  
微生物研究室

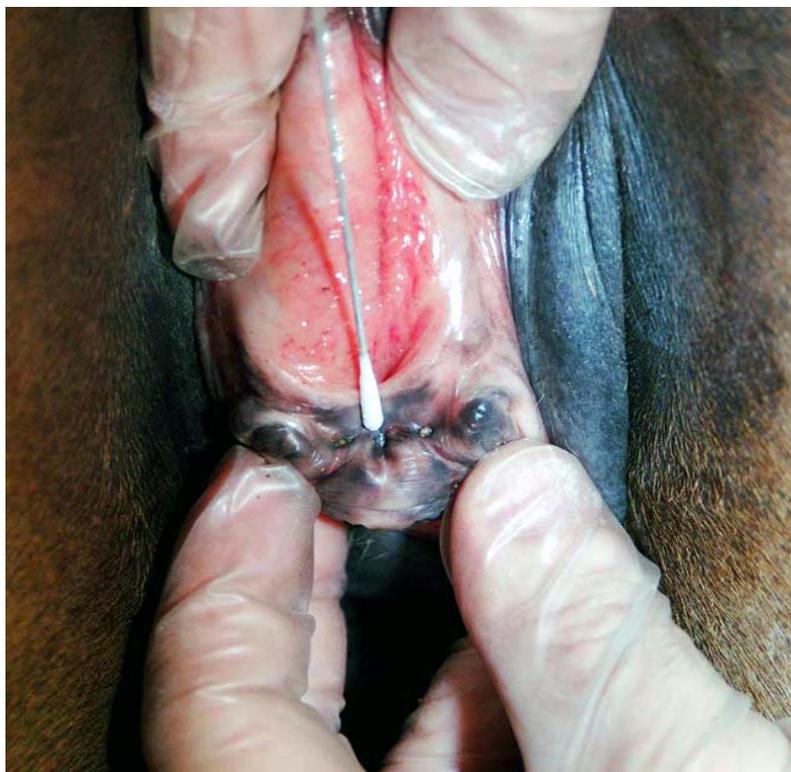


# (A) 陰核スワブの採取法

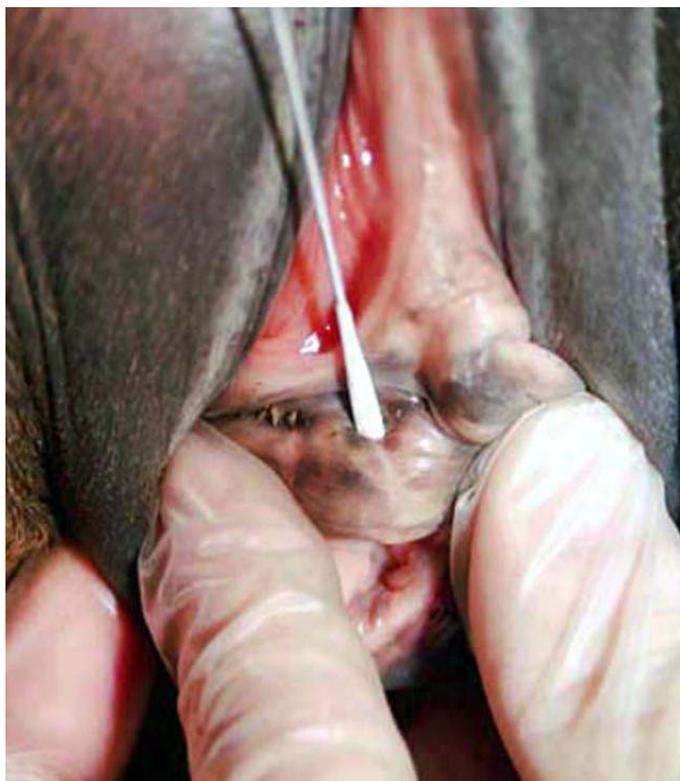
1. 綿棒（細いもの）を準備し、使い捨て手袋を着用する。
2. 馬を保定し、尾を挙上する。
3. 外陰部下部を開き、陰核亀頭(クリトリス)を露出させる。



4. クリトリスの上部を押し広げ、陰核洞を露出させる。



5. 正中陰核洞に綿棒を挿入する。



注) 正中陰核洞の脇には小さな左側陰核洞および右側陰核洞あるが、採材は正中陰核洞からのみ実施する。

6. 洞内の恥垢（スメグマ）を擦り取る。



7. 綿棒をクリトリスの下奥に挿入し、陰核窩のスメグマを擦り取る。



- 注-1) 一斉検査等の通常の検査の場合は、同じ綿棒で陰核洞と陰核窩の両方を採材する。一方、保菌が疑われる馬や治癒後の確認検査など、精密な検査が必要な場合には、それぞれ別々の綿棒で採材する。
- 注-2) 感染が疑われる場合は、子宮頸管からの採材も併せて実施する。
- 注-3) 左の写真では通常の綿棒を使用しているが、実際には細い綿棒を使う。

8. 綿棒を保存培地に収め、冷暗状態で送付する。



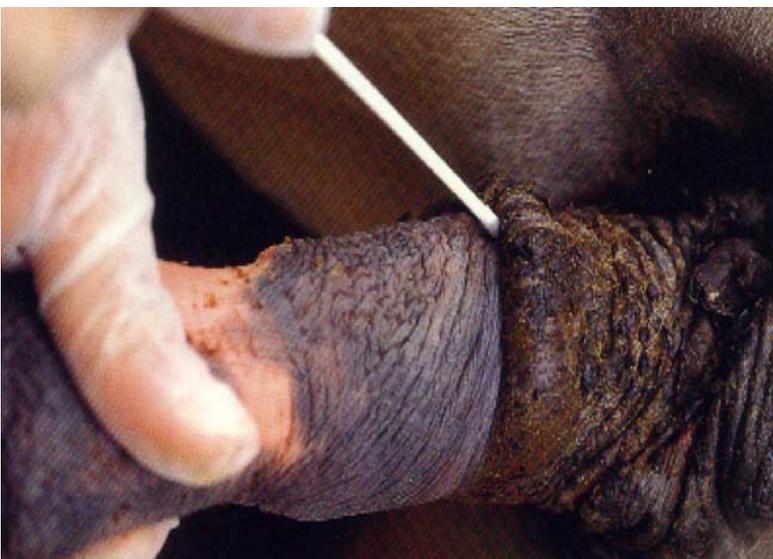
# (B) 陰茎スワブの採取法

1. 綿棒（細いもの）を準備し、使い捨て手袋を着用する。
2. 馬を保定し、必要により鎮静処置を行う。
3. 綿棒を尿道口の上部にある尿道洞へ挿入し、スメグマを擦り取る。

注) 写真では通常の綿棒を使用しているが、実際には細い綿棒を使う。



4. 必要に応じ包皮、尿道口からもスワブを採取する。  
注) 部位ごとに別々の細い綿棒を使用する。



5. 綿棒を保存培地に収め、冷暗状態で送付する。